



## 大阪部会(第9回)

日時: 2008年10月25日(土)18:00~20:00

場所: 同志社大学 大阪サテライト

### 【内容要旨】

(1) 第9回目の部会は18名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、八戸市中学校公民研究会で実施された教員研修プログラムと、今後予定されているワークショップなどについての報告があった。

(2) 引き続き、篠原総一氏から「経済の仕組み」のとらえ方についての提言があった。教科書で「経済循環」という表題で描かれている循環図は、所得のフローの循環であって経済の仕組みを表わした図ではない。特に、中学校の教科書では「投資」概念を教えないため、所得循環は貯蓄と投資の欠けた不完全な図になっている。そこで、モノの生産・分配・消費の図として、[素材→部品→加工組立て→配給→消費者]を基本的な流れとして描く。そして、この流れの中で、労働や金融がどのように絡んでくるのか、また、政府の役割は何かを、たとえば自動車や携帯電話などを例にして説明するほうが、経済の仕組みを理解しやすいのではないかという提言であった。

この提示された図のほうが経済の仕組みを理解するのに役立つという点では、参加者からの異論はなかった。ただ、このようなスタイルで授業を進めるとき、いくつかの問題があることが指摘された。①教科書の章立てを大きく変更することになる。②章立てを変更して授業を進めると、全国の統一試験を受けるときに授業進度と違った範囲から出題されるので対応できない。③転校生にとって、他の学校との連携に支障をきたすことになる。

(3) 奥田修一郎氏(大阪狭山市立南中学校)より、「経済学習での教材づくり」についての報告が行なわれた。まず初めに報告されたのが、「公共財ゲーム」の耐震改修についてである。ゲームを実践させる前の説明として、①フリーライダーに力点を置かない。②実際に起きた耐震偽装事件と、最近の住民の動きに触れる。③設定を10世帯から40世帯に増やして、グループ別ではなく個人の意思決定の問題にする。④改修費用を支払う場合と支払わない場合の40人分の表を作成する。等々。授業後の生徒たちの感想を読むと、自分の利益と社会の利益の矛盾に気づいたり、強制的あるいは協調的な支払いにはメリットがあることや、税金の必要性などについての理解が深まったことが分かる。このように、授業のやり方次第では、「公共財ゲーム」の意図するところを生徒たちに充分伝えることができる。

また、大相撲の力士の給与を例にして、年功序列型賃金や能力主義の給与などについて考えさせる事例の紹介もされた。

(4) 最後に、松井克行氏(大阪府立三島高等学校)より、三島高校で実施された特別授業についての報告があった。この特別授業には経済教育ネットワークのメンバーである大学教師もお手伝いした。授業の内容は、『くらしと経済』で経済全体のイメージを把握させた後、環境問題と経済の繋がり、自由貿易のメリットと問題点、市場のしくみ、政府の役割などについてであった。また、時事問題の分野では、サブプライム・ローンの問題と、自民党総裁候補者の財政政策プランについての授業が行なわれた。

(文責:西村理)